

## 第5回酒田市総合計画審議会文教部会会議録

日 時 平成19年7月10日(火) 午後1時30分～午後2時40分

会 場 酒田市情報プラザ 601会議室

### ◎出席者

#### ・ 部会長

佐藤 英治

#### ・ 委員

小松 隆二

大井よ志子

服部 正規

齋藤 義明

齋藤 龍彌

柴田 俊弥、

和田 明子

山中 俊

#### ・ 欠席委員

本間 清和

#### ・ 事務局職員

松本 恭博

五十嵐龍一

阿部 雅治

佐藤 伸

梅木 仁

兵藤 芳勝

小松原和夫

武田 政紀

齋藤 豊司

土井 一郎

松田 文夫

須貝 彰

齋藤 善和

菅原 信二

後藤 重明

阿部 勉

菊池 裕基

熊谷 智

大谷 謙治

前田 茂男

佐藤 瞳

### 協議日程

部会長あいさつ

#### 1. 開 会

#### 2. 協 議

(1) 酒田市総合計画第1次原案(施策の大綱)について

(2) 同(重点プロジェクト)について

(3) その他

3. その他

4. 閉 会

開会 午後13時30分

---

## 部会長あいさつ ・ 1. 開 会

○事務局（菅原信二） それではただ今より第4回酒田市総合計画文教部会を開催いたします。

それでは部会長より開会をお願いします。

○会長（佐藤英治） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日は本間清和委員が欠席です。定足数に達しておりますので直ちに会議を開催いたします。

---

## 2. 協 議

○会長（佐藤英治） 今回は4月27日の審議会に示されました酒田市総合計画第1次原案（施策の大綱）について、皆さまからご意見を伺うということになっております。それでは早速次第にしたがいまして進めてまいりたいと思います。それでは事務局より酒田市総合計画第1次原案（施策の大綱）の特に文教部会に関係する箇所を中心に説明願います。

○事務局（阿部雅治）

**資料説明。 — 省略 —**

○部会長（佐藤英治）

○和田明子：意見概要シートを読ませていただきました。私も以前言っていたのですが、担当部署を明記したほうがよいのではないかという意見がありまして、その対応状況が、市全体として取り組むことなので主管課を入れることは相応しくないとなっているのですが、教育の部分に限らず、どこの課が責任を持ってやってくるのかということを入れたほうがよいのではないかと思います。他市の例を見ても入れている総合計画もありますので、部署は変わりますが平成19年度時点のものを入れていただければと思います。

○事務局（阿部雅治） 先ほど申しましたが鍵カッコの分野もはずしたいということで、部署まで入れることには抵抗があるといいますか、再度検討させていただきますが、別添でつくるというのがありますが、文章の中に入れるというのは横断的な部分もありますので何か分るよ

うな形でまとめさせていただくようなことも検討させていただきたいと思います。

○和田明子：趣旨は10年後本当に達成できるのかということでもみなさん考えていると思うので、そうした時に市民が見て分かりやすいようにという意見も出てると思います。10年後にこれを達成していく、しかも毎年評価していくという趣旨から意見を申し上げました。

○部会長（佐藤英治） ご検討をお願いいたします。他にございませんか。

つなぎに一つだけですが、今回、10、11ページで公益の心ということ进行全面に出したということは大変によかったなと思います。今回の文教部会の大きな柱になる部分ではないかと思いますが、ちょっと表現の部分で第1章のところの具体的な施策の1つとして「公益の心」の涵養と「道徳教育」の充実というのはちょっと違和感がある並べ方として。つまり「公益の心」の涵養というのは柱であって、例えば体験活動の充実や読書活動の推進を通してあるいは学校教育全体を充実していく中で公益の心を涵養していくというふうにつながっていくのではないかなと思います。それを施策の中の1項目として並べると読んだ時にあれという違和感を感じたので。これは表現の仕方だと思います。趣旨は素晴らしいと思いますし、したがってこういう形で載せた方がよいのかあるいは施策の前段で強調したかたちで公益の心を3回目になりますが出した方がよいのか、表現だけの問題ですが、その辺お考えいただければと思います。

○学校教育課長：ご指摘がありました公益の心については先の部会でも具体的な見える形でお示しするべきだという意見を受けまして書かせていただいたものです。部会長からご指摘がありました公益の心の涵養というのは、施策の具体的な項目としてふさわしいものかというのは中々難しい問題で、事務局でも具体的に例えば公益の心を育む教育活動を推進するという文言にしてみたり、具体的なことにすると今度は回りにあります学力の向上だとか体験活動の充実だとか微妙にかぶりあう部分とありまして、ただ公益の心という文言を出していくための方法として悩んだところです。持ち帰らせていただいて検討させていただければと思います。

○部会長（佐藤英治） 次の重点プロジェクトの部分・・・

○齋藤龍彌：58ページ、施策3ですが、ここに文化活動を企画運営できる人材の育成があります。これは非常に大事な部分ですが、人材の育成だけでなく、やはりそれ自体を振興しなければならないということではないでしょうか。ただ人材・リーダーを育成するということだとまったような感じを受けるものですから。先ほどの公益と同じく大きなところだと思います。ご検討いただければ。

○文化課長：確かにそのとおりだと思います。ただ総合計画ということからすれば次の時代につなぐという施策も必要だと思います。そういった意味で今までと異なった新しい分野の人材

を養成するという事で載せております。この辺少し広がりを持った形で入れていくことも必要なかもしれません。検討させていただきたいと思います。

○和田明子：意見概要シートを読んでも、網羅的で市民には分りにくいとか、もう少し酒田の特徴を出した方がよいとかいう意見が大分あったと思います。それで今回重点プロジェクトということになったのだと思いますが、もう少し市民の意見を受けて、例えば43ページなどで説明していいのかなと思いました。どうしても網羅的になってしまう仕方がない部分があって、それを補うための重点プロジェクトだと思うので、そのことをもう少し市民に分るように説明していいのかなと思います。その時に酒田の特徴を出して欲しいという要望が多くあったと思いますので、重点プロジェクトが酒田の特徴を出すものになっているのだという視点でもう一回見直すことも必要だと思いました。

2番目ですが、財政的な裏づけがないと実現できるのか分らないという財政面のことをおっしゃっている市民もたくさんいたと思います。繰り返しになりますが何らかの財政フレームが人口フレームだけでなく必要なのではないかと思います。

それから、72ページに「本総合計画に基づき毎年予算化される各事業は」と、さらっと書いてありますが、どういうふうにこの計画に基づいて毎年予算が託されるのか、そこが一番重要だと思うので、そのことも少し市民に分りやすく書かれると安心されるのではないかなというふうに思いました。

3つめは達成状況、指標のことも書かれてありましたけれども、見直されている最中だとは思いますが、基本的に数がまだまだ足りないと思います。44、45ページでは具体的事務事業が9つありますが、目標数値は1つです。立地件数というのが究極の目標なのでそれはいいんでしょうけれども、指標の目的ですね、何で今こういうことをやるんだろうと考えますと、やはり重点的にやる事業1から9までが本当に成果をあげているんだろうかということを含め10年にわたって、しっかりはかりながらやっていくというのが趣旨だと思います。そうしますと、例えば1番の事務事業が本当に成果をあげているのかということを含め毎年確認しながら進めていく、そのための道具が指標ではないかと考えています。そうするとやはりもう少し多くいろいろなものがあっていいと思います。指標で計れないものがあるというのもまったくそのとおりなので、それを補うためにもアウト、カムだけでなくアウト、プット指標があってもいいかもしれません。もう少しここに書かれている事業が本当に進捗しているのかということが実感として持てるような色々な指標を入れていただければと思います。今後の課題ですが。

○プロジェクトについては同じような考えで直したつもりですが、もう少し分りやすく表現さ

せていただきたいと思っています。総合計画の特徴、10年後の酒田市の姿というのはプロジェクトの中身だといっておりますので、その辺について分りやすく表現したいと考えております。それから財政面についても厳しいと片方で言いながらもこれだけの事務事業を出してきておりますので、本当に大丈夫かという意見が大分あります。それについても中々表現しにくい部分もありますが、何らかのかたちで説明できるように表現したいと考えております。最後の行財政部会の中では、五年間の財政計画という指標がありますので、そういったことも説明をさせていただいて、行財政部会の委員の方からはご議論いただければと思っております。そういうところも踏まえて検討させていただきたいと思います。

目標数値も何回もご意見をいただいてここまでしかできないのかというような話だと思います。事業に対して1つずつ目標数値があるというのも分ります。事務事業評価というのがありますが、それは1つずつ評価して事業を進めていくということもやっておりますので、その辺も踏まえてどういった形でできるか検討させていただきたいと思います。

○大変大きな問題であり、また重要な問題でもあると思います。・・・コーホート。

○企画調整部長：一般的に人口動態を推計する場合、コーホート変化率法を使うんですが、ある期間のどこかどこかを捉えまして、一般的に国調の数字を使うんですが、前回と後の調査でどういった変化をしているかということから、そのまま先に推計していく論法です。そうしますと右肩上がりですとずっと伸びていき、途中で下がるということはあまりないわけですが、逆に右肩下がりだと未来永劫上がらなくなります。そうすると今出生率だとかの係数を入れていくわけですが、現時点で旧酒田市や合併した新酒田市いずれも右肩下がりの方の人口の推移となっています。合併時の人口が10年後には103,000人になってしまいますと。先ほど財政フレームの話もありましたが、決して今の状態だと右肩上がりにはならないです。これを行政として市民にお示しをするときに、悲観的な姿でお話して、はい分りましたというのであれば、それはそれでよろしいんでしょうけれども、必ずしもそうはいかない。あれもして欲しいこれもして欲しいというのが必ずありますので、その時にではどうしましょうかというのが、実は今回の総合計画を作るにあたってのもっとも悩ましい問題でした。前段の総花的に行政の守備範囲としてどうしてもやらなければならない部分、一部には協働の社会をつくりましょうということはあるのですが、では人口なり財政なりをフレーム的に上げていく手法として何をやるかということが実は今回の総合計画のミソです。黙っておれば下がっていく、財政的にも厳しくなっていくけれども、例えば財政で言えば網羅的にはやるけれども一部市民の力もお借りしながら、団体の力もお借りしながらということで、そこで生まれた財源をこういうかたちで集

中的に使っていきたいと思います。そのことによって減少率をいくらかでも食い止められる手法がないか。もっとうまくいけばこれを右肩上がりに転じることができないかというところが今回の総合計画の構成の骨子です。例えば、これは10年を見越した期間で議論していますが、財政的には五年先までははっきり見えるものがあります。辺地計画や過疎計画は国からの辺地債や過疎債が入りますのである程度財源的な手立が見えます。そうしますと5年先までははっきり言えます。ところがそういう特定財源が入らない事業につきましてはどうしても自前の財源でやり繰りしなければならないものですから、10年先を見せるというのはかなり厳しい。では、何をやっているかという実施計画という3年のローリングで、その時点に行く数字は若干変わっているよという、それは計画の熟度によりますし社会的な変化も伴ってきます。ただ突如やらなければならない事業が入ってくるものですから、実施計画も公表をしております。ただし、少なくとも来年度予算に向けて今の時期、どのような考え方かということを示しているのが委員のみなさんにお渡ししている重要事業要望です。少なくともこれを踏まえて酒田市としては来年度どういうふうな考え方で予算を組もうとしているのか。何を要望しているのかが見える仕掛けになっています。それが毎年の積み重ねです。このことは残念ながら市民のみなさんにこれまで説明してこなかったものですから、中々見えないと思います。総合計画は5年後には見直しはしますけれども10年先の話で、固有名詞のついた事業は中々書ききれないというようなかたちで見えない見えないという批判をいただきました。しかし、これまでの総合計画に比べればかなり見せたつもりですが、行政システムをご理解いただかないと見えないというようなことになってきざるを得ない。我々も責任のない状態で事業なり数値を出せないものですから、その部分ではご容赦いただきたいということでしたが、計画を立てて実施に向けるというプロセスは今申し上げた形の中で行っているということをご理解いただければありがたいです。

○部会長（佐藤英治）実際の予算の動き、現状ということが今の話で大変良くご理解いただけだと思います。・・・

○齋藤義明：57ページ、事務事業の健康スポーツ・レクリエーションの普及が書かれていますが、事業主体ということで市民、団体と書かれているので市民全体が入るというのは分るんですが、全体的に見ると障害者の位置付けというのがどうなのか。私の見た感じで申し訳ないですが健康スポーツ・レクリエーションの普及は健常者を対象にしているということを感じる部分があります。その辺、障害者を踏まえたような形の文言を入れていただけたらありがたいと思っています。56ページの具体的事務事業には特別支援教育という言葉が入って、学校の

現場ではこのようなことに取り組みますと書かれていますので、このような形で書かれていれば、これを見た障害者の方々もある程度はご理解いただけると思うんですけども。それ以降についてはこういった言葉が出てこないのかなと思うものですから、ご検討願えればありがたいです。

○体育課長：ノーマライゼーションということでスポーツに限らないわけですけど、健全者と障害者については、載せていくかどうかは検討の余地があると思います。これから年代別のスポーツの振興という観点と、障害者の競技スポーツも盛んに行われているわけですのでその辺も含めてどう表現するか検討したいと思います。

○和田明子：私も同感で、最初気づいていたんですが忘れてしまって、特別支援教育が新たに入ったわけですが、個性創造プロジェクトとせっかく言っているので、障害を持っておられる方もそうでない方も、男性も女性も、外国の方も日本人もという意味で、今、ノーマライゼーションとおっしゃいましたけれど、そういう考えが全体を通して湧き出てくると、それこそ酒田の1つの特徴となると思いますので、今の視点は私も賛成したいと思います。

○管理課長：今の関係で補足します。総合計画の性格上、それ程詳しい項目は載せられないだろうということで、大きくくりで健康スポーツ・レクリエーションの普及とさせていただきます。これにあわせ個別計画であるスポーツ振興計画をスポーツ振興審議会に諮問しています。その中では当然障害者スポーツのことも載っておりますので、総合計画が上位計画でその下にスポーツ振興計画があるという位置付けだったものですから、ここにあって入れなくてもいいのかなと思っておりました。ただ、新課長がそういう答弁をしましたので、検討させていただきます。

○柴田：レクリエーションという言葉が入ったのはいいことだと思います。

○山中：公益の心を育む方はどういう方で、こういった手法で対応するのかというごく素朴な疑問があるんです。どんな世代の人が小中学校に接して・・・これだけでは足りないのではないかな。開闢以来の歴史・・・生涯学習でとりあげる 地域で教えたいと思っても 教える側の研修、具体的策をどう考えてこの項目が出てきたのか。

○学校教育課長：酒田のよさというのは子ども達は地域の宝であるという温かい風土ということであると思います。子どもは必要とされて大人になる。周りのそういう大人の声に耳を傾けながら、自尊感情、つまり自分はよりよく生きたいという思いを回りに支えられながら生きていける、そんな子ども達が培えるように、学校で同年代で学びあう和だけでなく、広く学びあ

う機会を地域に開かせていただきながら、地域もともに子ども達を育てていただけるそんな思いを持ってこの項目をあげさせていただいたところです。色々な方々を学校にお招きして色々なお話を聞くという場もありますが、そんな思いが底辺にあるということをご理解願えればと思います。

○中山：手っ取り早いのは農業。環境醸成を

○

○齋藤龍彌：

ついて、省略)

○会長（佐藤英治） これで第4回の文教部会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会 午後2時35分